

ついで。つぎに15m・12mと連続で岩場が出てくる。下の15mは岩がもろく、今回も左岸をまぎ、中ほどにトラバースして出る。上の12mは階段状になっているので、フリーで注意して登る。この核心部をすぎると、沢はヤブがおおいかぶさり、歩くのがよいでなくなる。途中大きな岩が出てくる。上を歩くのが出来ないで岩の下をくぐりながら歩く。まるで迷路のようで、前回簡単にぬけたこの場所だが今回はぬけるにぬけられない。まっくらな岩の下を横になって進んだり、前回通りぬけたその穴が土砂でふさがれていたり、行ったりもどったり。30分以上もロス時間を作ってしまった。それをすぎると、またヤブになやまされる。早目に沢から出、右側にヤブこぎに入る。1時間15分で胎内岩への登山道に出る。ヤブに入ってからトランシーバを使いながら鉄山避難小屋と連絡をとると私達のパーティが一番遅いとのことなのでピッチを上げるがヤブでは思う様にあつかえない。登山道へ出た時のやすらぎは一段とすばらしい。鉄山で昼食。みんなといっしょに塩沢へと下る。(記)

仏沢

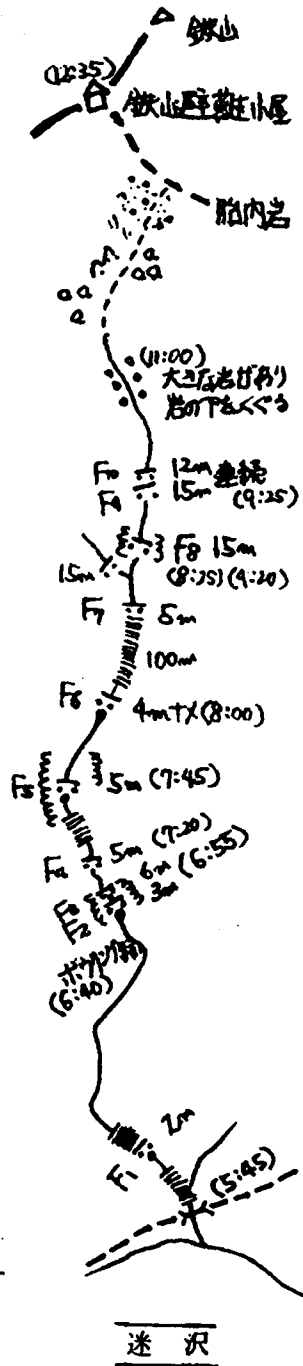
【パーティ】 L 一吉

【記録】

福島(18:40) 橋(20:00)

小山さんのマイクロバスで高森川の橋まで送ってもらい、その道路から入る細い道を少しいと広い所があり、そこでビバークする。迷沢の2人もいっしょにビバークする。

8/7 幕首地(5:30)——仏沢出合(5:45)——
 沢終了(10:00)——登山道(12:00)——
 鉄山小屋(12:20)



ビーク地点が迷沢と仏沢の間だったので二手にわかれて出発する。沢に入っ
すぐ大きな岩が行く手をさえぎり、コケが密集していたため、いい沢なのかと思わ
れましたが、進んでいくうちにだんだん失望してくる。いくら行っても滝1つなく
何の変化もあらわれないのです。沢が小さくなってから伐採地が有り、木の枝が沢
に入り込み歩きにくく、「なんという沢だ」と思いながら進む。水流がきれ後はカ
レ沢となりヤブこぎがはじまる。兵輪山が見えたので、鉄山との鞍部を目指してい
く。背たけほどの笹が密集しており、ルートはずしやすいため注意して進む。沢
を離れて2時間でヤブこぎから解放され登山道に出る。そこから30分で鉄山小屋
につく。(記)

湯川

【パーティ】 山

【記 録】

前夜、福島を車で発ち、塩沢温泉のすぐ近くにテントを設営する。朝6時に橋の
ところから遡行を開始する。しばらくの間は何の変哲もないゴロが続く。えん提
を越えると湯元温泉の小屋が右側に現われ、さらにゴロの中を進むと笹平への道
が横切っている馬返しにつく。大きな岩のゴロをやや進んだあたりから沢筋はよ
うやく感じが良くなり小滝と釜が出てくる。滝が小さい割には大きな釜があり、へ
づりで通過する。水ごけのきれいな所をすぎると三階の滝が現われる。一番目の大
きな釜をもった滝は左側の水線添いを登る。二番目の滝は兩岸がせばまり光もとど
かない。水勢も強く手強わそうに見えるが、右側にホールドを求めて直登できる。
三番目の滝も右側を直登し三階の滝は無事終了する。この先はナメと釜が連続して
おり、屏風岩の下まで続いている。F11は簡単に通過しすこしゆくと、右側から八
幡滝が落ち込んでおり、私達はこちらの沢に入る。しばらくの間はナメの快適な登
りが続き、F13の中の滝をワラジのフリクションをきかして登り、さらにナメを進
むと、湯川最大の滝である霧降りの滝につく。右側をシャワークライム気味に直登
を試みたが、上部にいて草付が不安定のため右側のブッシュににげる。この先
になるとほとんど滝らしい滝もなく、時々ナメが出てくる沢筋となるが、兩岸から木
もかぶさり快適さはなくなってくる。沢が南西に曲るあたりでブッシュに入り、40
分のブッシュこぎで、僧悟台からの登山道に出る。(